

令和元年・大阪支部「秋季歴史探訪の会」開催報告

(奈良興福寺と平城京跡巡り)

担当：大阪支部「集いの会」、奈良部会

日時： 令和元年9月28日(土) 09:00～19:00 参加者数：31名

内容： 興福寺巡り・・・昨年再建された中金堂を中心に興福寺境内、国宝館などを巡る。
・菊水楼にて昼食・・・由緒、歴史ある菊水楼内部の見学をし昼食をとる。
・平城京跡巡り・・・大極殿、天平みはらし館、平城京いざない館、遣唐使船を見学。
・懇親会・・・奈良東向商店街の四季彩菜にて懇親会実施

報告：

- ・今会の歴史探訪は、奈良部会との共催で、興福寺境内と平城京跡を巡るツアーを実施致しました。昨年10月に興福寺中金堂が再建され、興福寺の中核となる中金堂が出来たことで、興福寺の往時の面影が少しずつ理解できる環境が出来つつあります。また平城京跡の発掘調査が進み、その成果が平城京いざない館、みはらし館、復元遣唐使船など歴史公園でまとめて見ることが出来るようになり、興福寺の見学と合わせて奈良時代に皆でタイムスリップするという企画です。
- ・興福寺巡りは奈良まほろばソムリエの資格を持ち、興福寺ガイドの第一人者である山崎愛子氏にお願いしました。山崎氏の丁寧で興味深い説明に参加者は聞きほれてメモを取られる方も多かったです。山崎氏は出身県から今回参加者の田口教平氏と高校が同窓であったということも分かり、話が弾みました。
- ・興福寺国宝館では国宝の山田寺仏頭を見学致しましたが、昼食時に岡崎支部長殿より説明があり、この仏頭が発見されたのは戦前で、名工大(当時の名古屋高等工業学校)出身の黒田昇義(のりよし)氏が奈良県文化財に勤めていた時に東金堂基壇下から発見されたものということであった。このような文化財の発見の場面でも名工大の先輩の活躍を知る事ができて、大変良かったです。
- ・菊水楼での昼食前には、菊水楼の楼内見学を致しましたが、創業明治24年と、奈良ホテルより古く、当時は天皇、天皇親族を始め、外国の重要なお客様も泊まれたということであった。初期の経営は豊臣秀長の子孫が行ったということで、楼内には豊臣家の家紋である五七の桐が随所に見られ、更には玄関には東郷平八郎の”如菊水”の扁額が飾られていて、菊水楼の歴史の重みが感じられました。
- ・興福寺散策の後、平城京跡の大極殿を見学し、興福寺の中金堂と大極殿はいずれも平城京を設計した藤原不比等が監修したものであるが、中金堂を大極殿より若干小さく造っており、天皇に対する付度(気づかい)が既にこの頃から始まったのではというガイドの話は興味深かったです。
- ・懇親会では今回の散策で収穫した色々な話で、盛り上がりました。更には懇親会の最中にラグビーWCで日本がアイルランドに勝利したという情報が入り、ビールのピッチも上がりました。
- ・来年の春季歴史探訪は大津の石山寺を中心に、探訪をする予定です。紫式部をはじめとする平安時代にタイムスリップして皆さまと一緒に散策したいと思います。多くの方々のご参加をお待ちしております。



興福寺でのガイド説明



興福寺中金堂前にて



平城京大極殿前にて

(記：横山 誠 K47)